

11期 青柳 健二

・実施日 2021年2月5日(金)～7日(日)

・参加者 (11期) 青柳 ・ (22期) 黒崎
(26期) 畠山 ・ 同奥様 4名

今年のスキー合宿は、新型コロナウイルスにより緊急事態宣言が発令されている中での開催となりました。ちなみに、スキー合宿の開催案内を正式に出した12月29日は、東京の新規感染者数は856人、私の住む埼玉県は300人であり、まさに感染爆発が起こりつつある時期でした。

それでもスキー愛が溢れる私としては、何とかスキー合宿を実施したいと、12月13日に前年の参加者にむけスキー合宿への参加意思を確認するアンケートを取りました。「今年は雪の降り出しが早く、スキー場は12月12日にオープンしている。23回も綿々と続いて来た伝統行事である。オーストラリア人が来ない宿は蜜にならず感染リスクは少ない。ゲレンデも比較的空いていて滑り易いと思われる」等をアピール。

結果は、佐藤さん・野村さん・上馬さん・片田さん・井上さん・堤さんが、感染リスクを取ってまで参加できないとの事でした。雪国に住む皆さんは地元のスキー場で滑れるからの感もあり、無理強い出来ませんでした。

もう少し参加者を増やせないかと、12月末にスキー大好き人間たちに重ねて参加の案内を出しましたが、山中さん・Y野村さん・舟田さんはスキーを引退の様子、山西さんは医師である身で参加出来ないとのことでした。コロナ禍でスキー客が減っている宿やスキー場を応援したいとの思いもあり、上記4名での実施となりました。

・2月5日(金) 晴れ

朝7時半前に自宅を出て、大宮駅9時9分発の上信越新幹線はくたか555号に乗り10時33分飯山駅着。乗客は少なく一人で座席3席を占有。その昔自家用車で来た時には暗い時刻に出掛けしたが、新幹線はさすがに速いものである。

野沢温泉行のバスに乗ると、黒崎さんが乗り込んで来た。11時10分には中尾バス停に着き、宿“ふるさと”に入る。12時にはスキーに出発。スキーレンタルの手配がある黒崎さんを置いて、上に登る。リフト券は2日券(7700円也)とした。

新長坂ゴンドラで一気にやまびこ駅へ。10人乗りのゴンドラを4人乗りに制限(感染予防策)中間駅が無くなり早い。新やまびこ駅にレストランが出来ていると思ったが、そうではなく少し下ってやまびこレストハウスへ。12時半となり、昼食とする。ビーフカレー(1150円也)。黒崎さん合流。

13時10分にスキー開始。毛無山まで一気に登って、やまびこAコースを滑る。青い空に白く輝く樹氷が美しい。3回滑って喫茶ダンテで休む。ソフトクリームを食べたいと思ったが、店員はおらず残念なり。仕方がないので自販機でジュースを買い喉を潤した。



(2.5 毛無山新ゴンドラ前)

休んだ後は、やまびこAコースを2回滑り、やまびこDコースを2回滑るとさすがに疲れたのでレストハウスに入ろうとすると、15時半なのに既にクローズしていた。仕方がないのでスカイラインを滑り降りスキーを終えた。

今シーズンの初滑りであり、スキーの調子は今一歩であったが、今年もスキーが出来たことが嬉しかった。白く輝く樹々の雪が美しく、マスクをしてのスキーではあっても、滑る喜びに満たされた1日であった。

宿ふるさとでは夕食は我々2名のみ。それでも何時も通りの美味しい料理で疲れを癒した。

食後は部屋で黒崎さんと歓談。私が61歳の時に登ったヒマラヤトレッキング・ゴキョピーク登頂の映像を披露。またバードウォッチングで撮りためた野鳥写真を披露した。

・2月6日(土) 快晴

黒崎さんは、土日は運営している“観音坂いちえ”の仕事があるので、早めに朝食を食べて7時過ぎのバスで帰宅された。

9時過ぎには畠山夫妻が来館。奥様が宿泊することになり、その手続きをしてスキーに出発。長坂ゴンドラで毛無山に登り、やまびこAコースを3回滑り、例によってダンテで休んで、やまびこAコースを2回滑って12時前に昼食とする。(チャーシューメン、1050円也)



(2.6 毛無山山頂)

12時半となり食堂が混んで来たのでスキーに出かける。やまびこAコース3回、やまびこDコースを2回滑って、やまびこEコースからスカイラインコースで宿に戻る。快晴の1日で気持ち良く滑れたが、さすがに足腰にガタがきて、スカイラインでは2回転倒。それでも怪我も無く滑り降りられたのでホットした。15時半には宿に戻り、名物の甘酒を飲んで一息ついた。この時が何とも言えない満足感に浸る時間である。

ストーブ横で畠山夫妻としばし歓談。畠山さんの山スキーは、夜3時頃には家を出て、ヘッドランプを付けて山に登り、夜明け頃には山頂に立って滑り降りスタイル。雪崩を避けるための最善の策であり、昼前には自宅に戻るとの事であった。本物のスキーヤーだと感服した。

畠山さんは16時過ぎに帰宅された。

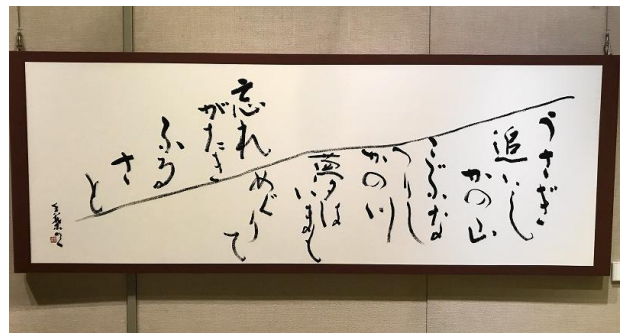
畠山さんの奥様と2人で夕食を取る。この日は、我々の他には家族連れが5組で、団体さんの宿泊は無かった。スキー場でも若者達で結構混んではいたが、外人さんが少なくいつもとは違う野沢温泉であった。疲れが溜まったのか、9時過ぎには早々と床についた。

・2月7日(日) 曇り、時々小雨

好天の中を2日間タププリ滑ったので、この日は野沢の温泉街を散歩することにする。朝食をユックリ食べて宅急便の用意をし、9時半過ぎに宿を出た。畠山さんの奥様は、中尾の湯に入浴したあと、長野に出て東山魁夷美術館を観覧し善光寺に参拝するとのことでした。

中尾の十王堂で閻魔様などの像を拝んでから、温泉街を大湯方面に歩を進める。

「おぼろ月夜の館」に入ると、高野辰之展を開催していた。1階の常設展と2階で『高野辰之の世界、その巨歩と業績』展を観覧する。



高野辰之は、尋常小学校唱歌の多くを作词している。『故郷』『もみじ』『春がきた』『朧月夜』など。また松本商業高等学校校歌など100校近くの校歌も作曲しているのには驚いた。だが、業績は国文学者としても著しく、『国文学史』『日本歌謡史』『日本演劇史』などの著作がある。信州中野の生まれで野沢温泉村で没したが、信州人の真面目さと努力家でもある様を知り感服した。

大湯から雪深き湯澤神社を参拝すると、お昼になり中央ターミナル近くの“庄平そば”で昼食とする。天ざる蕎麦と生ビール、美味い!

小雨が降る空模様で、予定より早い13時過ぎのバスで帰途についた。

参加者が少なく最後は街歩きとなったが、野沢温泉の魅力を再発見したスキー合宿であった。